

## 防空壕調査の実施結果

### 【調査の趣旨】

当市では、戦争の記憶を風化させず、また資料の散逸を防止するため、1998年より戦争体験談や戦時中の写真等の戦災関連資料を収集しています。

この度、これまでの取組みである戦災関連資料の収集に加え、戦時中の生活の様子や戦争とゆかりのある場所等を把握し、次の世代に戦争の記録を残していけるよう、市内のどこに防空壕等があるかの調査を実施し、結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。

なお、引き続き防空壕等に関する情報を収集しますので、情報をお持ちの方はぜひ情報をお寄せください。

### 【調査内容】

自宅の地下や庭、学校や公園などに現存する又は存在した防空壕等についての情報を収集しました。

- ①防空壕等に関すること（所在地・所有者・防空壕等の概要など）
- ②その他戦争の体験談

### 【調査結果】

- ・情報受付期間：2023年2月21日～随時受付
- ・情報受付件数：56件（うち6件重複）
- ・防空壕件数：49件（現存19件、現存しない・不明30件）  
※うち3件は非公開のため公開件数は46件（現存16件、現存しない・不明30件）
- ・区別の防空壕数：

所在区	計	現存状況		
		現存	現存しない	不明
東灘区	2	0	2	0
灘区	8	4	4	0
中央区	12	0	10	2
兵庫区	4	1	3	0
北区	1	0	1	0
長田区	3	2	1	0
須磨区	9	6	3	0
垂水区	6	3	2	1
西区	1	0	0	1
計	46	16	26	4











※2024年11月30日現在












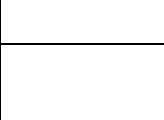
# 防空壕一覧

■ 現存 ■ 現存しない・不明

※概要・エピソードは、原則情報提供いただいた原文のまま掲載しています

No.	施設等名称	所在地	現在の状況	写真		概要・エピソード	備考
1	甲南医療センター	東灘区鴨子が原	現在は残っていない				
2	成徳小学校	灘区備後町	現在は残っていない				
3	桜ヶ丘町の斜面	灘区桜ヶ丘町	現在も残っている				・2023年10月23日時点で現存しないとしていたが、現存に修正（2024年1月31日）
4	一王山町の斜面	灘区一王山町	現在も残っている				・2023年10月23日時点で現存しないとしていたが、現存に修正（2024年1月31日）
5	六甲台町の斜面	灘区六甲台町	現在は残っていない				
6	民家	灘区篠原北町	現在は残っていない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦中は家の向かいに高射砲陣地があり、防空壕は弾薬庫として使用していたようで、高射砲陣地からトロッコが走っていたと聞いている。</li> <li>・高射砲の痕跡は見たことがないが、土壁は1.5メートル程度で広さは8畳分くらいあり、砲座は畳3枚分くらいだった。砲身は南を向いたら紀伊水道にあたる。土壁内に目隠しのためか一抱えもある幹の松の木があった。</li> <li>・防空壕は元々あった穴なのか、新たに掘った穴なのかは分からないが、大人が2人手を繋いで立って歩けるくらいの横幅と高さがあった。</li> </ul>	・2023年10月23日時点で現存としていたが、現存しないに修正（2024年1月31日） ・施設等名称変更及び概要・エピソード追加（2024年1月31日）
7	奥摩耶山林の斜面	灘区大石字長峰山	現在は残っていない				・2023年10月23日時点で現存としていたが、2023年12月末に閉塞されたため現存しないに修正（2024年1月31日）
8	上野道沿いの斜面	灘区城の下通	現在も残っている				
9	八幡通付近	中央区八幡通	現在は残っていない				
10	八幡通付近	中央区八幡通	現在は残っていない			別紙参照	
11	東遊園地	中央区加納町	現在は残っていない				
12	一宮神社	中央区山本通	現在は残っていない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1943～1944年頃、神社境内に防空壕を作りました。町内会会で広いものでした。</li> <li>・山本通1丁目には1945年6月5日の空襲で全て焼き尽くされました。</li> <li>・空襲後私はすぐ縁故疎開しました。家には父と中学1年生の姉がいました。焼夷弾が雨のように落ちてきて、家が燃え始めました。最初は父が水をかけて消しておりましたが、火の勢いが激しくなり、父から天神さんに逃げると言われ、急いで毛布をかぶる道路を北隣の親友と急いで駆け上がりました。暫くして父も来て助かりました。</li> <li>・3月17日、6月5日の2回の空襲の際にもこの防空壕は利用しませんでした。</li> <li>・6月の空襲で防空壕に入っておれば煙と火で死んでいたと思います。</li> <li>・終戦後、1～2年後に埋め戻しました。防空壕の上に植えておりました樹は現在も元気に育っております。</li> </ul>	
13	北野町の林	中央区北野町	不明				
14	生田神社	中央区下山手通	現在は残っていない				
15	北野工房のまち	中央区中山手通	現在は残っていない			北校舎（木造・現在は残っていない）の下に防空壕のようなものがあって聞いています。校舎の軒下を子供が立って歩けるくらい掘っていたようです。	
16	北野町の斜面	中央区北野町	不明				
17	神戸箕谷線トンネル内	中央区山本通	現在は残っていない				
18	神戸箕谷線トンネル南側の斜面	中央区山本通	現在は残っていない				
19	諏訪山公園	中央区山本通	現在は残っていない				
20	稲荷茶屋裏側の斜面	中央区神戸港地方	現在は残っていない				

No.	施設等名称	所在地	現在の状況	写真		概要・エピソード	備考
21	民家	兵庫区多聞通	現在は残っていない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の実家で小学3年生（湊川小学校）まで住んでいました。1944年、小学3年生のときに集団疎開のため、兵庫県安師に疎開、実家をはなれましたが、その実家の庭に小さな防空壕を掘って必要なものを入れていたのを覚えています。</li> <li>・その後いろいろあって平野に住みましたが、今はバス通りになっている山手幹線？の平野ー五宮といった道にいくつか防空壕があって、空襲があるとその防空壕に避難しました。雪の日もあり防空頭巾をかぶって家から出たのを覚えています。</li> </ul>	
22	会下山小学校（旧川池小学校）	兵庫区上沢通	現在は残っていない			過去の資料に防空壕があったという記録が残っています。	
23	福寿院夢野大師登り道	兵庫区清水町	現在は残っていない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・清水町にある夢野大師への登り道の入口のすぐ左側に太平洋戦争中防空壕が掘られていました。私は中へ入ったことはないのですが、どれくらい奥行があるのかは知りません。</li> <li>・戦後10年くらい経って、入口は石とコンクリートでふさがれました。</li> </ul>	
24	民家	長田区平和台町	現在も残っている			<ul style="list-style-type: none"> <li>・父が1948年に購入。すでに防空壕は付属していました。庭にコンクリートで造られ、入口が南北に2か所西向きに造られ、天井部に約50cm四方の空気孔があります。築山でおおわれ、上に松の木、ヒマヤヤ杉等が植樹され、日本庭園風に築かれています。</li> <li>・1955年頃、私の記憶では、周辺はまだ空襲で焼けた木造家屋の基礎があちこち残っていました。焼夷弾破片があちこち残っていました。</li> </ul>	
25	妙法寺池ノ谷の山林	須磨区妙法寺池ノ谷	現在も残っている				
26	萩の寺・北向八幡神社参道	須磨区妙法寺宇宮ノ下	現在は残っていない				2023年10月23日時点で現存とされていたが、現存しないに修正（2024年1月31日）
27	妙法寺南側の斜面	須磨区妙法寺毘沙門山	現在は残っていない				
28	白川の山林	須磨区白川	現在も残っている				
29	民家	須磨区大手町	現在も残っている			<ul style="list-style-type: none"> <li>・防空壕は、1935年に家を建て直した時に、日露戦争に出征したおじいさんが、日本が強くなったら、大きな国と戦争するようになり、日本も攻撃されるかもしれないと、その時のために地下室を作り、コンクリートで固め、井戸も掘り、ひしゃくで水が汲めました。</li> <li>・もし前に（西側が出入口）爆弾を落とされたら出られないからと、南側のお店の方に抜ける小さな窓もありました。</li> <li>・3月17日、6月5日はお母さんは近所の消火に行きましたが、国民学校1年生の自分は、この中に隠れていました。</li> </ul>	
30	山陽電鉄東須磨駅南側付近	須磨区東町	現在は残っていない				
31	勝福寺	須磨区大手町	現在も残っている				

No.	施設等名称	所在地	現在の状況	写真		概要・エピソード	備考
32	旧後藤邸	垂水区塩屋町	現在も残っている				
33	塩屋町の山林	垂水区塩屋町	現在は残っていない				
34	塩屋墓地付近の斜面	垂水区塩屋町	現在は残っていない				
35	民家	垂水区塩屋町	現在も残っている			家を購入して転入したところ、たまたま庭の片隅に防空壕が存在していました。元々大きな屋敷の敷地の一角であり、大人数名が入れるほどの広さが現存しています。	
36	東名荒神社付近の山林	垂水区名谷町	現在も残っている				
37	有馬温泉 銀水荘 兆楽	北区有馬町	現在は残っていない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・有馬町に空襲はなかったが、サイレンが鳴ることはあり、栄町地区の住民が利用していました。</li> <li>・奥行は6m程度あり（当時）、終戦後長い間あり、近所の方が保冷所代わりに使用していました。</li> <li>・現在は駐車場にするべく入口付近は削られ、法枠工で固められています。</li> </ul>	
38	長田天神町の斜面	長田区长田天神町	現在も残っている				2024年1月31日追加
39	妙法寺小学校	須磨区妙法寺字	現在も残っている				2024年1月31日追加
40	舞子台の林	垂水区舞子台	不明			60年くらいに中に入って遊んでいました。	2024年1月31日追加
41	住吉本町の地下	東灘区住吉本町	現在は残っていない				2024年1月31日追加
42	大国公園	長田区本庄町	現在は残っていない			<ul style="list-style-type: none"> <li>・60年くらい前に、大国公園に防空壕が1つありました。</li> <li>・今はきれいにされておりましたが、土か石で作られていたと思います。</li> </ul>	2024年1月31日追加
43	押部谷町の斜面	西区押部谷町	不明			<ul style="list-style-type: none"> <li>・防空壕であるとは断言出来ませんが、子どもの頃、神戸電鉄栄駅の東側の路地を北上した先にある池のほとり西側に洞窟がありました。</li> <li>・親に話したところ、防空壕のあとであると教えられた記憶があります。</li> </ul>	2024年1月31日追加
44	篠原北町の施設	灘区篠原北町	現在も残っている				2024年1月31日追加
45	千鳥町の斜面	兵庫区千鳥町	現在も残っている				2024年1月31日追加
46	鈴木よね邸宅跡	須磨区若木町	現在も残っている			南側斜面に邸内への通用口に使われた石積みみのトンネルが残っており、戦時中は防空壕にもなっていました。	2024年1月31日追加

## No. 9～11 防空壕 概要・エピソード

No.9 八幡通付近（中央区八幡通）

No.10 八幡通付近（中央区八幡通）

No.11 東遊園地（中央区加納町）

ある時、父が玄関先の床をめくった。「もし空襲があればこの中に逃げ込むんだ！」と言った。いつの間に、こんな穴を掘ったのだろうか？穴は1m くらいの四角い形で、深さも1m くらいちょうど風呂桶くらいの大きさだった。僕はこの中に家族4人が入るとどんな状態になるのか、団子になった家族を想像した。

当時の私は5歳で、家は葺合区八幡通にあり、路地を隔てた南に小野八幡神社がある、掃き清めたきれいな庭が私の遊び場であった。現在の神戸市役所庁舎から東へ200m くらいの所である。それからどれくらい後だったか、その日の午後、空襲警報が鳴って壕に潜っていた私に隣保の人が「ここでは危ないから！」と近くの防空壕に行くように言われたので、あわてて壕を出た。辺りは薄暗く夕方だったと思う、母と自宅の西側を流れる小川の東側に沿った道を北に歩き、言われた防空壕に移動した。何も持たず身ひとつだった。

防空壕は大きく南北に20m ほど、入口の幅は10m ほどの半地下で、屋根は材木などで覆われ土などは乗っていません。すでにかかなりの人が座っていて入口のところに座り込んだ。

どのくらい時間が過ぎたのか「ここでは危ない！」と大きな声が響き、防空等から慌てて出された、大人たちの慌てぶりからも危険が感じられた。壕の外は暗くてよく解らなかったが、小川にかかる小さな橋を渡りトンネルのような横穴に入った。壕は土と岩のむきだしの壁で、ロウソクの火でかろうじて人の顔が見える状態だった。ムツとした気持ちの悪い状態で、立ったままかなりの時間が経過した。

後に母から聞かされた話なしでは、私がぐずって、外に出るといって聞かなかつたらしい。外は危ないからと何度も言われたようだったが、少しの時間ということで外に出ることができた。外は真っ暗闇であったが、心地良い風の感覚は今も覚えている。闇空に光の塊が流れてゆっくりと落ちてきていて、わあキレイと感じたが、後にこれは照明弾で、それに高射砲だろうか大きな音が連続して鳴っていた。まさに米軍機の空襲で焼夷弾が雨あられと降ってくる直前の状態だったのだと思う。僕はすぐに壕に戻った。怖いという感覚は全く感じなかったが、この光景は80年近く経っても脳裏から離れない。戦争という状況をこの目で見た最初で最後の瞬間だった。

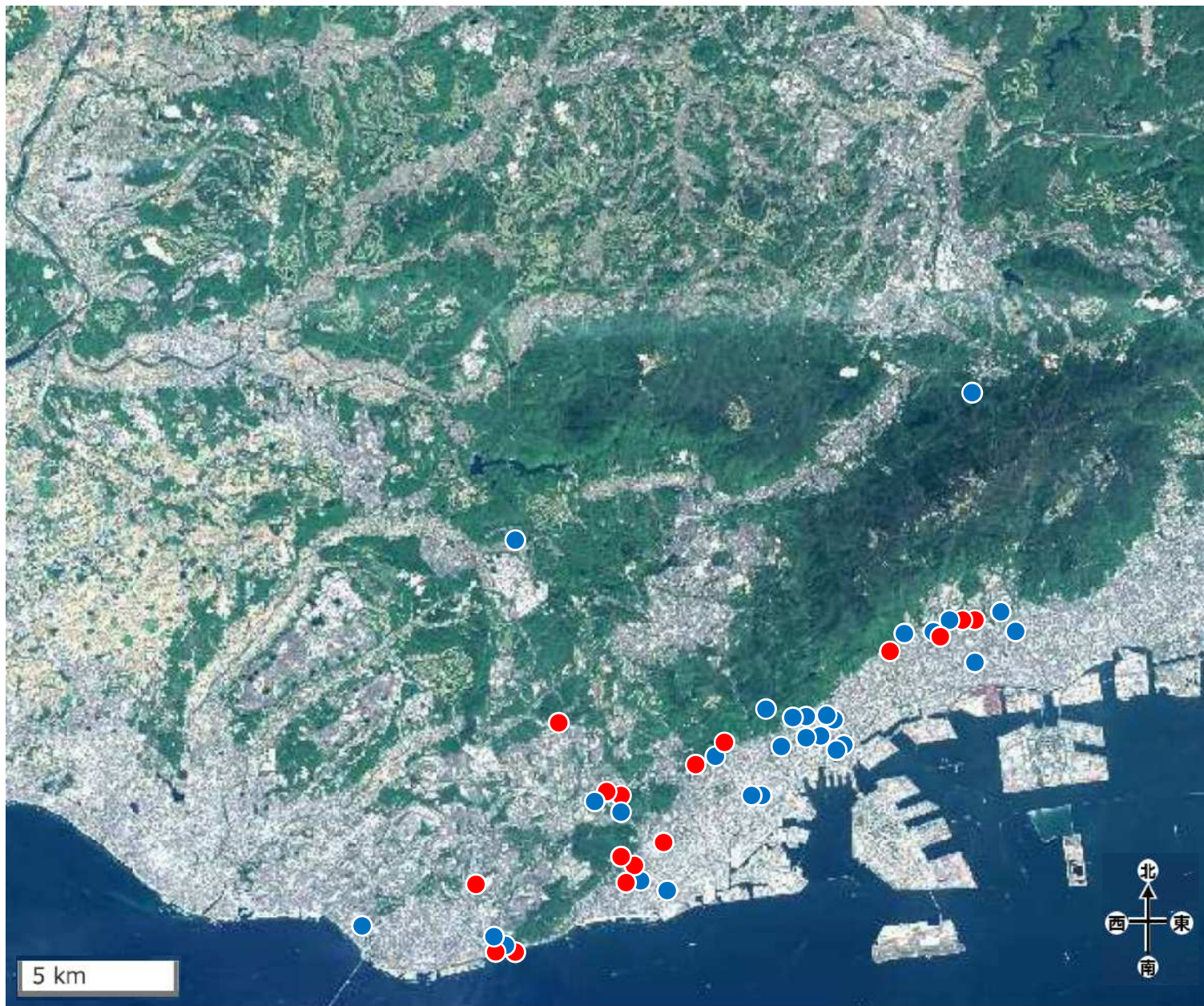
その後、どれくらい時間が過ぎたのか。大きな大人の声かして、「外は焼け野原だ」と叫んで壕に入ってきた。「焼け野原」の意味が理解できなかったが、母は心配そうな小声で「家が焼かれてなくなった」と言ったが、僕は信じられなかった。家に帰りたいと言って聞かない僕を母は連れて帰り、「ここよ」と指で差した。その先にあったのは、灰に覆われてはいたが形や大きさ深さの感じから、父が掘った自宅の壕に違いないと感じた。辺り一面は焼け野原であった。“3つ目の横穴防空壕”が命を救ってくれたのだ。だが、その後、“とてつもない飢え”が待っていようとは思わなかった。

あの命が助かった“防空壕”が何処にあったのか？自分の中で特定できないでいた。現在の東遊園地は市役所の南側にあるが、確かに東遊園地の位置だとはずっと記憶の底にあったが、現在の地形は平らになっていて盛り土になっていない。記憶が正しいのかどうか永年疑問が解けなかったが、「神戸闇市からの復興」（村上しほり著）に手がかりがあった。

写真には当時の東遊園地には盛り土があり、これは旧生田川の名残の川の土手ではないか？現在のフラワーロードの東側に、戦災前にインド商社が立ち並んでいたという母の話と一致していた。高い土手とインド商社が続く見事なエキゾチックな街並み。写真に写る歩道上で2人のご婦人が立ち話をしているが、その場所こそが“3番目の防空壕”ではなかったか？

# 防空壕マップ

● 現存 (16件)    ● 現存しない・不明 (30件)



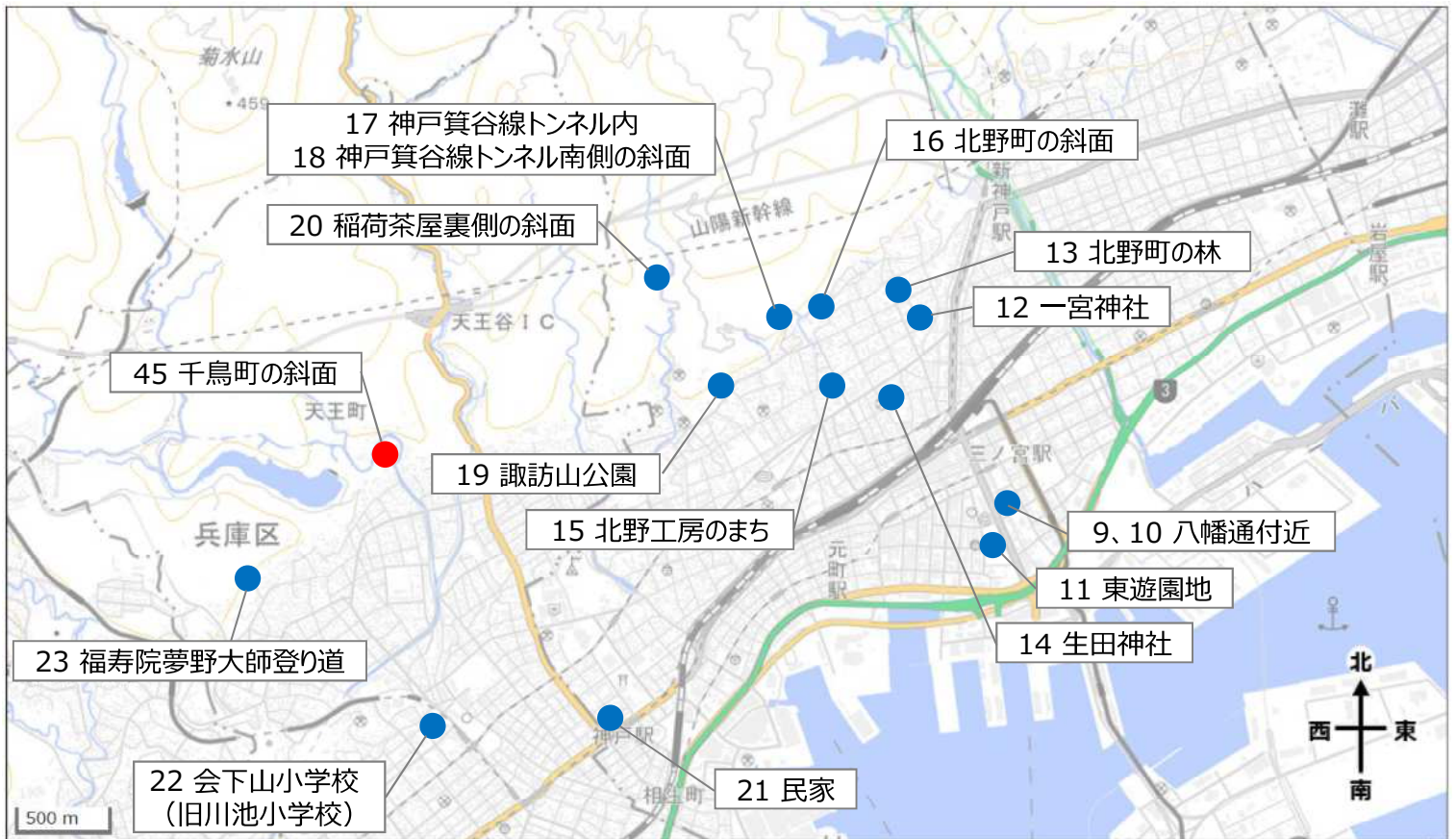
※ 電子地形図（国土地理院）を加工して作成

※ 本マップは、市民の方からいただいた情報もとにおおよその位置を示したものであり、必ずしも正確な位置とは限りません

## 東灘区・灘区



## 中央区・兵庫区

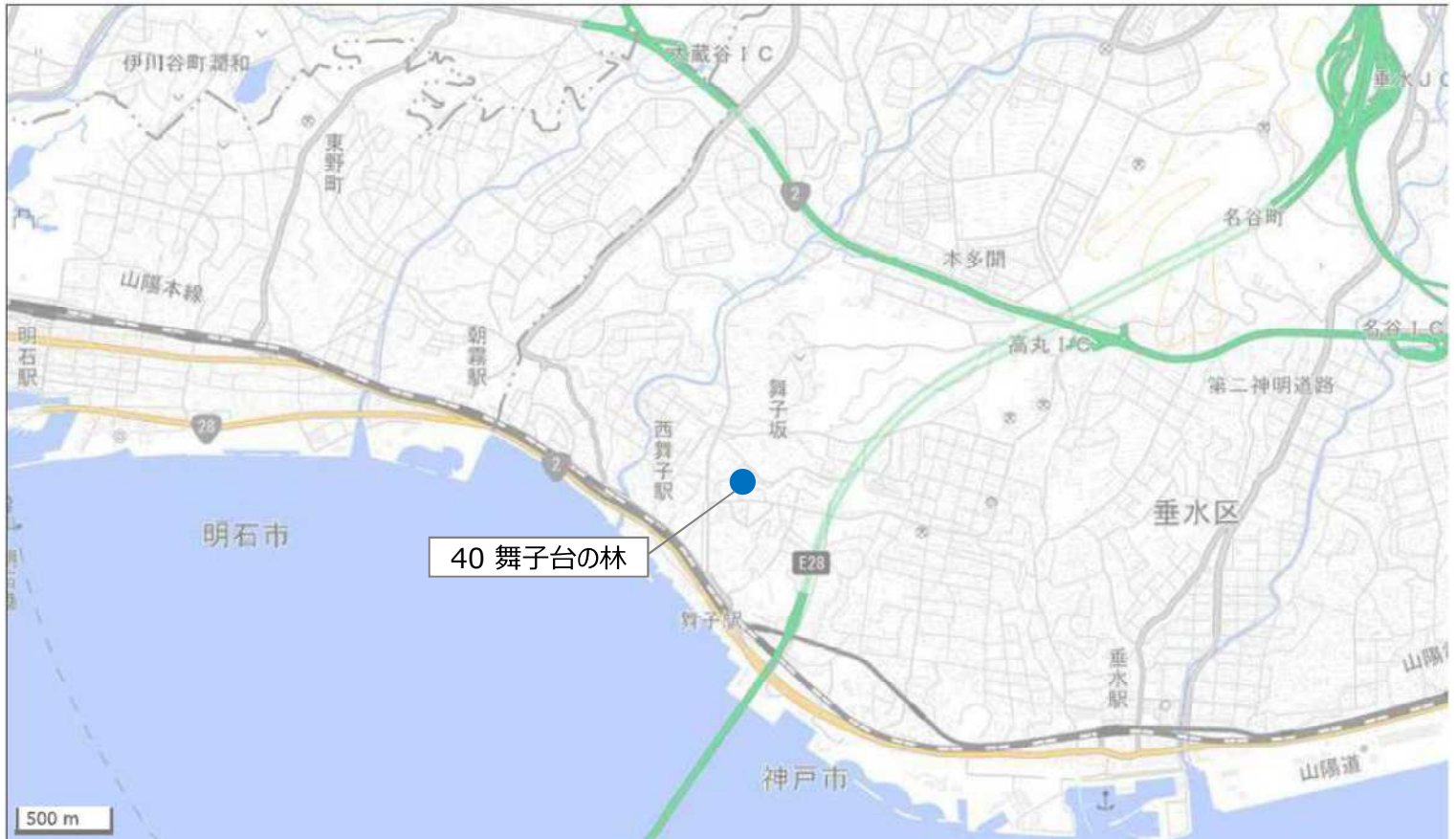


長田区・須磨区・垂水区





## 垂水区



## 北区



# 西区

